

## 6 トビイカ漁業試験

### 当真嗣誠

自動イカ釣機を使ったの漁獲試験は、断片的ではあるが3年前からしばしば実施してきた。その結果自動釣機の連結針(擬餌鉤)には良く喰いつくことが確認されている。しかし、傘針に触腕だけちぎれて出てくるケースが多く自動釣機はトビイカに関する限り、その機能は十分に発揮し得ない状態である。今年は、これ等の問題点を究明せんがため擬餌鉤の傘針と写真1のように1重に改造したものと2重針との喰いつき具合や、切腕の状態と擬餌鉤の色彩別による漁獲関係、更にシャクリ板を外した場合の影響等について調査したので概況を報告します。

#### (1) 期間・日程

航次	出 航	入 港
1	47年 9月 8日	47年 9月10日
2	47年10月28日	47年10月30日
3	48年 9月19日	48年 9月21日

#### (2) 漁場

沖縄本島東方沿岸(漁場図参照)

#### (3) 使用漁船 くろしお

総トン数 21.44トン  
 主 機 100 PS ヤンマー  
 発 電 機 10KV 大洋電気  
 燃 油 槽 3.0 m<sup>3</sup>  
 清 水 槽 1.5 m<sup>3</sup>  
 魚 艙 容 積 6.5 m<sup>3</sup>  
 速 力 8.0ノット  
 乗 組 員 船長 比嘉幸一 外6名

#### (4) 漁況

##### (イ) 1重針と2重針の漁獲比

	47年9月8日		47年9月9日		47年9月10日		計	
	漁獲尾数	切腕数	漁獲尾数	切腕数	漁獲尾数	切腕数	漁獲尾数	切腕数
1重針	5	14	21	25	5	15	31尾	54本
2重針	31	15	26	15	17	21	74尾	51本

1重針の場合は、31尾漁獲するまでに54尾も切腕で逃逸しており、逃逸した比率は174%を示した。2重針の場合は74尾の漁獲に対し切腕逃逸したものは51尾で比率は68.9%を示し

た。結局1重針は2重針より漁獲尾数は少いうえに切腕逃逸するものが比較的に多くその差は顕著である。

(ロ) 擬餌鉤の色彩別漁獲比

	47年9月9日	47年9月10日	計
青の擬餌	62尾	22尾	84尾
赤の擬餌	48尾	28尾	76尾

上記の表は、同一の自動釣機での試験結果であるが青・赤の擬餌鉤に関する限りその優劣はつけ難い。

(ハ) 自動釣機のシャクリ板を取外した場合の操業結果

シャクリ板を取外せば釣糸は静かに上下するため、イカが喰いついてもイカに当てる機械的な衝撃は減少した。その反面擬餌針の動きが鈍り喰いつきは低調となった。しかし、切腕して逃逸するイカは下表のとおり少くなっている。

	47. 10. 28		10. 29		10. 30		計	
	漁獲尾数	切腕数	漁獲尾数	切腕数	漁獲尾数	切腕数	漁獲尾数	切腕数
シャクリ板を外した釣機(1台)	17尾	7本	17尾	12本	37尾	24本	71尾	43本
シャクリ板付の釣機(2台)	123尾	91本	86尾	88本	86尾	75本	295尾	249本

シャクリ板を作動させない場合は、71尾漁獲されるまでに切腕逃逸したのは43尾で比率は約60.5%である。釣糸をシャクリながら操業すると295尾の漁獲に対し249尾切腕逃逸しており比率は84.4%を示した。

(5) イカの大きさ

今年(47年)9月自動釣機で漁獲されたイカは、外套長12.5cmから24.3cmの範囲に平均15.90cmに見られる。体重は75gから575gあって平均179.55gである。

10月は、外套長12.6cmから29.0cmで平均19.8cmモードは18cmに見られる。また体重は63gの超小型から1,679gの超大型まで出現し、その範囲は広く平均378.26gで先月に比べかなり成長していることが察せられる。

48年9月は、外套長11.2cmから20.8cmあって平均15.26cmでモードは14cm~15cmにある。体重は35gの幼イカから390gあって平均148.75gである。なお同時に漁獲されたイカでも友餌釣の場合は外套長13.9cmから28.5cm平均17.50cm、体重は105gから1,060g、平均248.25gを示しイカより平均100g重くその差は顕著である。

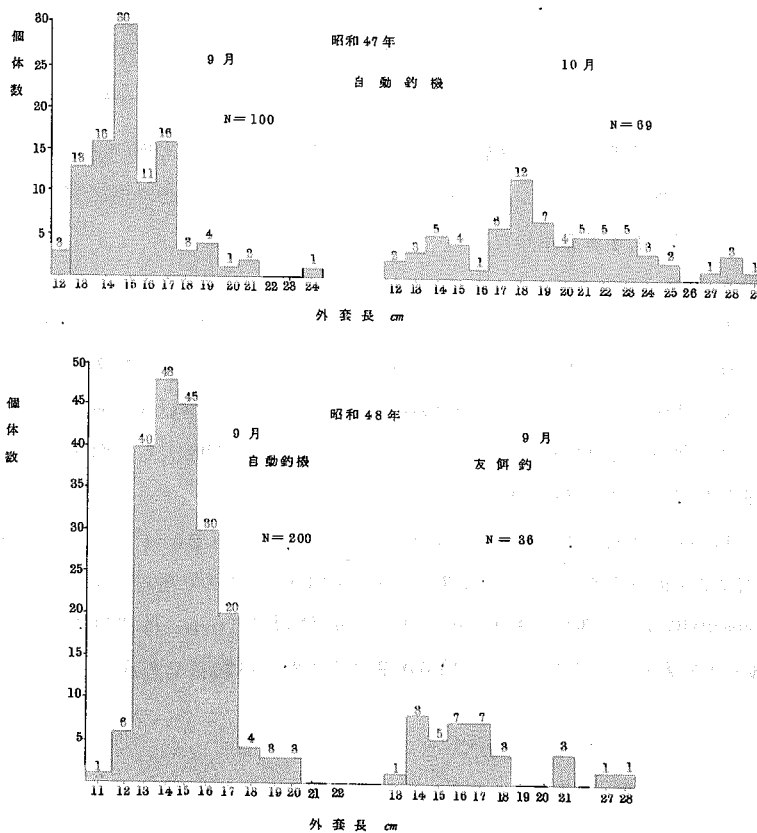
(6) 雌雄別出現状況

漁獲年月	調査尾数	雌雄数		比率	
		♀	♂	♀	♂
昭和47. 9月	100尾	56尾	44尾	56%	44%
“ 47. 10月	69“	54“	15“	78.26“	21.74“
“ 48. 9月	200“	133“	67“	66.50“	33.50“

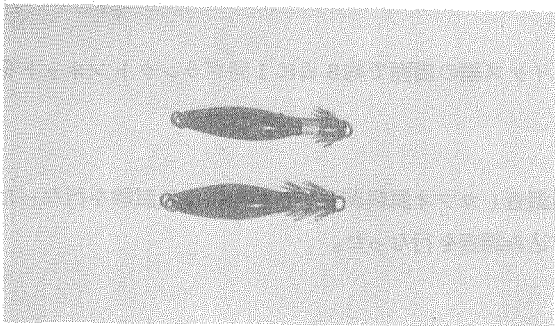
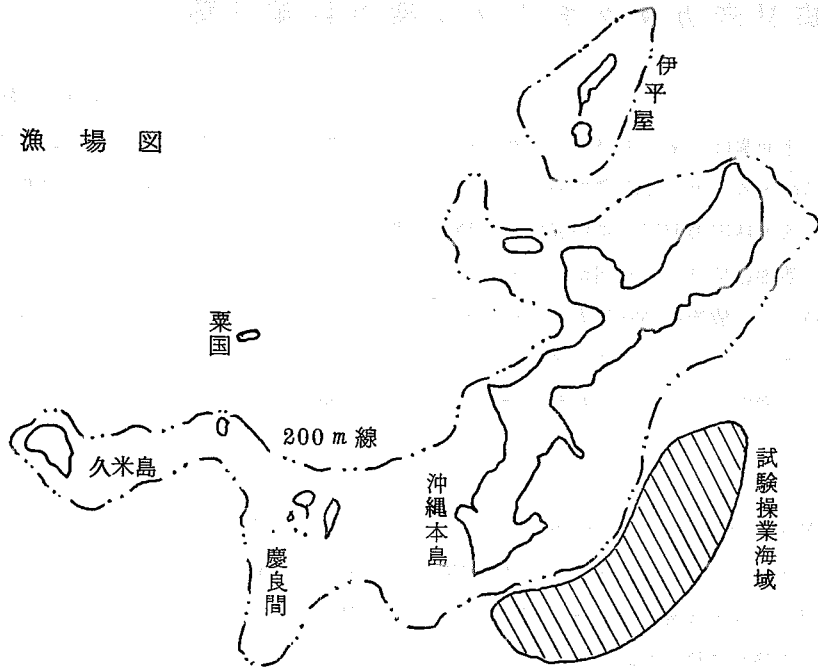
(7) 問題点

トビイカの触腕は、操業中の切腕状況から見て切れ易いことは確かである。しかしながら無傷で漁獲されたイカは、水面に引上げられ更に自動釣機の流台のローラーを通過するまで切腕しないことから水中で切腕逃避するイカは擬餌鉤に喰いつく瞬間的な衝撃で切れるものと推察される。したがって擬餌鉤の改良は今後の研究課題と云える。なお擬餌鉤の1重針と2重針との釣獲比率から1重針は2重針より喰いつきも悪い傾向があり、さらに切腕逃避するものが多いため3重針での釣獲試験を行う必要がある。

図1 外套長組成



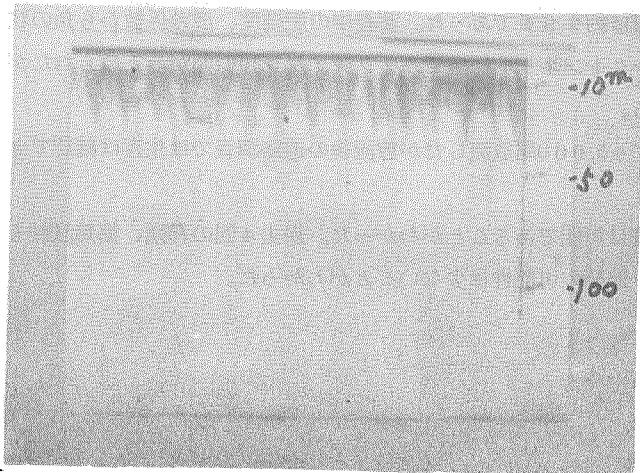
漁場図



写真I イカ擬餌鉤

上 1重針

下 2重針



写真II 操業中の魚探記録

V字状になっているのは釣糸と擬餌鉤の上下作動の記録で、その合間にトビイカの薄い群らしきものが現われている。